

巻頭言

母校に誇りを

勝田 啓示

4

特集 1

千葉商科大学創立90周年に向けて(最終回)  
時代背景を考えた学びと社会の変化

高橋 伸治

5

特集 2

創立90周年記念イベント  
「本学OB社長による記念講演」より  
『小松川信用金庫創立100周年を迎えて』  
千葉商科大学創立90周年記念CUC社長サミット開催

高橋 桂治

12

特集 3

活躍する卒業生  
山あり谷あり！そして平穩

内田 茂男

27

活躍する卒業生

本部からの報告

広報・IT委員会

35

定期総会のご案内

大学創立90周年記念主要イベント案内

各委員会からの報告(直近委員会から)

支部長会からの報告

硬式野球部 激戦の応援

支部からの報告

同期会からの報告

OB会からの報告

同窓生寄稿

高校野球観戦

卒業生のお宿・お店紹介「創作郷土料理 菊富士」

なぜ人は、自分の評価を高く考えてしまうのか

アジアとうまく付き合う方法

平島 清

59

CUC経営者会議

CUC経営者会議第4回総会開催

橋本 隆子

62

随筆

橋本 隆子

62

教育後援会活動

教育後援会役員会報告

CUC保護者会(新潟・長野会場)を開催しました

CUCの教育

「真間あんどん祭り」で地域活性化

— 人間社会学部 真間行灯ライトアップ企画実行委員会

ゼミ紹介

「環境」を学びと活動のきっかけに—自然エネルギー100%大学を目指して—

杉本 卓也

創立90周年記念イベント「覧

■ ニュース・イベント

瑞穂会が全国大学対抗簿記大会史上初の団体戦6連覇！トップ5を独占！

第149回簿記検定1級試験に16名が合格

「ダブル・ディグリー」のプログラムへの1期生4名が両大学の学位を取得！

商経学部3年片見公亮さんが山形県の

「平成30年度バリンピック等メダリスト育成事業強化指定選手」に認定

学生ベンチャー食堂に新たな学生経営者が誕生！

CUC公開講座 in 丸の内2018「アカウンタブルな社会・経済への大学の貢献」

千葉商科大学スペシャルマナーデー 創立90周年感謝祭

CUCレポート

■ メディアで紹介されたCUCの報道一覧

■ 国際センターニュース

アジアの若者、市川キャンパスに集う

高橋 百合子

■ キャリア支援センターニュース

夏を制したものが、就活を制する

川 瀬 功

■ 地域連携推進センターニュース

東京東信用金庫 地産都消プロジェクトへの参加

市川市との包括協定 じゅん菜池プロジェクトの活動

2018年度地域志向研究助成金受給者決定

キッズ大学2018サマースクールの開催

「日本預金保険制度の経済学」 著者・大塚茂晃

著書紹介

大塚 茂晃

▼千葉商科大学創立90周年記念事業 寄付者芳名録 95

▼同窓会支部事務局一覧 98

▼編集後記 100

## 母校に誇りを

天高く馬肥ゆる秋、澄んだ空を見ているとあの猛暑の夏が嘘のようである。キャンパスの賑わいに学生の皆さんの充実した学園生活が伝わってくる。

創立90周年を迎えた母校は躍進を続けている。学長プロジェクトの一つ「自然エネルギー100%大学」への取り組みに環境大臣から原科学長に優秀賞が授与され、ユニバシティ・ダイニングの設計・建築と「フォトログインいちかわ」の活動では市川市景観賞を受賞、また6月の「食ベログマガジン」の「学生食堂」ジャンルで全国2位にランクイン、「学生への起業支援」と「キッズビジネスタウン<sup>®</sup>いちかわ」の運営には中小企業庁の「創業機運醸成賞」を受賞、全国大学対抗簿記大会では学生瑞穂会が史上初の団体戦6連覇！トップ5独占など数々の業績が物語っている。母校に対する社会的評価も高まっている。これらは平成26年に作成された「CUC Vision 100」に

### 勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長  
(昭34商)



よる将来構想に向けた重点戦略に基づき教職員の皆様のためまぬご努力の賜物と頭の下がる思いである。

同窓生の活躍も目を見張るものがある。民間の調査機関の社長数全国大学ランキングによれば国公私立780の大学の中で常に上位50位以内の位置を維持している。これは母校の発展、社会的向上の貢献に値するものである。これも武士道精神を通して「高德の実業人を創る」という実学尊重の教育方針の成果に違いない。

母校は創立100周年に向かい社会科学系の総合大学として益々躍進をしていくであろう。学生の皆さんはこの大学に学ぶ幸せに、保護者の皆様はご子息のこの大学で成長していく姿に、そして同窓生の皆さんはこの大学の卒業生であることに、それぞれが躍進著しい母校に もっとも誇りを持ってはありませんか。

# 山あり谷あり！そして平穩

## 国分正彦

株式会社タンダン（トラベルタンダン）取締役営業部長  
昭和42年 商経学部経済学科卒業

まず初めにこれまで掲載されてきた皆様の経歴・社会的に重職をなされている方々に比べ、ここに記載する事は大きな躊躇いがありました。

前期高齢者の最後の年に当たる小生が「活躍する卒業生」のタイトルには相応しいとは言えないこれまでの歩みをお知らせ致し、一つでもご納得を頂けましたら、幸いに存じます。

出身は札幌で高校まで過ごし、厳しい父親の教育を受けて参りました。父は海軍の職業軍人で、一兵卒から16

年軍隊暮らしであった為に厳格で少しの過ちも許しません。口答えをしたものならば直ぐにビンタが飛んできません。

復員後は会社を経営し、全道で8ヶ所の支店を持つほどになりました。しかし、厳格な性格が災いしたのでしようか、私が高校3年生の時に事業が傾きだし、大学進学に赤信号が灯りだしました。入学金・授業料が安い条件のもと、学校からの推薦で千葉商科大学に進学する事になりました。



入学後、英会話クラブに入り英語を学ぶ意欲を強く持ち、少しでも役に立つ会話を楽しみたいと、自宅から徒歩10分の米軍病院を訪問し、アルバイト希望を拙い英語で門番の米軍人に伝えました。熱意が通じたのでしようか、運よくボウリング場の受付に採用されました。

ベトナム戦争の負傷者が多く、気は荒いが意外と親切な兵隊が多く、楽しく仕事をする事が出来ました。当時の日給は550円。二等兵の時給にも達しません。

米ドル、ベトナムドンの違いもよく分からず、ベトナムの貨幣を掴まされよく叱られました。米兵と連れ立って飲みに出かけ、色々面白い経験もしました。

卒業後は、米軍病院での英語が通じたのでしようか、航空会社（キャセイパシフィック）に入社する事が出来ました。まず予約・発券業務を担当し、2年後に営業に回り、上場会社を中心に会社訪問の毎日でした。

5年間の勤務の後、大韓航空から強い誘いを受け同社に転職を致し、予約業務の指導に始まり2年後に営業に配属されました。前職の経験を生かし、旅行会社へのセールスだけでは高付加価値を期待できない、会社の人事、総務、海外事業部の出張担当部署への営業を行わねばならないと強く主張。この案が認められ企業担当セー

ルス部門の長として出発することになりました。蓋を開けてみれば苦勞の連続で、訪問しても結果が伴わない。日本企業は日本航空利用優先、次に大手の外国航空会社。わが社は韓国企業のために中々耳を貸してもらえなかった。

一流航空会社の3倍以上の知恵と努力と情報分析力が求められる。焦りがじわじわと膨れ上がった矢先、中近東のプロジェクトが活発化し、労働者の派遣が増加する傾向が強まった。日本三大エンジン・エアリング企業、千代田化工から声がかかり、これを契機に三菱重工、鹿島建設、大成建設、日揮等の主要企業から次々と予約が入った。営業実績も前年の約7倍。日本支社長からの表彰、大韓航空の趙社長からの表彰と絶好調で、役職も現地採用のトップ3、マネージャーの任命を受け、小生意気な30代半ばであった。

その後、静岡営業所長、東京の営業部長を経て、東北6県を担当する仙台支店長に赴任。各県が定期便の就航を求めており、どの県を指定するか調査を兼ねていた。各県から韓国へチャーター便を運航してもらい、実績と県の姿勢を調査し推薦するのが主な仕事。非常に熱心な青森、秋田、福島県の3県が激しい競争となり、知事からの強い要請で最終的に青森県に決定。40代後半にして日韓

を結ぶ定期便就航に寄与出来ました。しばしマスコミからの取材攻めに閉口もしました。

1年間でチャーター便を年間6県から合計54本飛ばしたが、料金設定、旅行代理店と本社とのグレーな点に不信を覚え、本社から派遣されている東京支店長に改善を要望。黙っていれば今後の人生が安泰なのに、勢いづきついに決裂して挫折感を味わった。

翌年3月の人事異動で名古屋空港に副支店長で飛ばされ2年後にリストラを受ける事になり、サラリーマン人生も51歳で幕を引いた。

退職時には子供の教育、1人は大学2年生、1人は私立高校1年生と遊んでいる余裕は無かった。前職を生かすべく25社の旅行会社に履歴書を送り、やつとの事2社から採用の連絡が有り、内1社に入社。給料は航空会社時代の半分以下。しかし文句は言っていられない。入社した旅行会社も1ヶ月で会社の資金繰りがつまり、200万円の融資を依頼され支払う。実績が無くとも首にはならない為の保険のつもりであった。2ヶ月目からは給料が支払われず、全社社員が同じであった。半年後には倒産。大波のどん底に漂っている感じであった。

こうしている内に、人に頼ってはられない、自分で

切り開かねばと父の言葉が蘇り、自営の道を歩む覚悟を決めた。幸いキャセイパシフィック時代の先輩が旅行会社を経営していたので、歩合社員としてスタート。

航空会社出身の為に自分の顧客がいらない、歩合はほとんど無い、生活をしなければならぬ、またもや苦勞の始まりであった。アルバイトをしながら旅行会社の営業と二股の生活が始まった。警備会社で週末勤務、平日は旅行の営業。こうしている内に高校時代の友人が役員をしている会社を訪ねグアム社員旅行50名の受注を受け、これを契機に同窓会活動に目覚め、千葉商大東京支部同窓会に参加。救う神に会うことが出来ました。諸先輩から北欧旅行などの紹介を頂き徐々に旅行業に専念する礎となりました。千葉商大卒業生で良かったとしみじみ感じ、感謝の気持ちで一杯になりました。現在は横浜に在住しているので神奈川支部にも入り、皆様からお客様をご紹介頂き、現在も仕事を続けさせて頂いております。

地元でも旅行が契機となり、老人会の会長を仰せつかり活動中です。また、本年から神奈川支部長の重責を負い、これまでの恩義に報いるべく努めさせて頂きます。

やつと人生終盤に平穏が訪れる気配を感じている今日この頃です。